

# 市川 図書館だより No.102

2018. 9. 10

発行：市川市中央図書館 編集：広報委員会 〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 TEL. 047-320-3346

## 特集：経済小説/ビジネス小説

働きすぎているのかも



『サラリーマン金太郎』や『課長 島耕作』など、人気のサラリーマン漫画は多数ありますが、小説の世界でも1970年代後半から経済を主題とするものが多く出版され、人気も高まりました。

この頃、戦後の約20年にわたる高度経済成長が終わり、それまで猛烈に働いて会社の発展に尽くしてきた会社員たちは、不景気による経営破綻、不当解雇など、先行きの不安な時代を迎えていくのです。このような社会状況の大きな変化が、各業界や企業の在り方や雇用に多大な影響を与えるとともに、様々な「経済小説」のヒット作を生み出していきます。

現実の社会では、このところ、長時間労働、雇用形態による格差、労働人口不足などの問題を解決し、多様な働き方を選択できる社会を目指す“働き方改革”が話題になっています。社会をリアルに映す経済小説の世界では、今後、どのような作品に出会えるのでしょうか。



“経済小説”とは、明確な定義はありませんが、東京経済大学教授の堺憲一氏によると、「企業や業界、そこで働く人々や事件などを扱った小説の総称」です。(楦 周平『再生巨流』新潮文庫版の解説より)

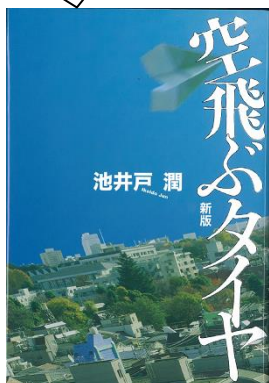
総合商社が舞台のフィクションで、映画化やドラマ化もされました。



『不毛地帯』全4巻  
山崎豊子／著  
新潮社

1976～1978年出版  
(表紙画像は2009年刊文庫)

実際にあった自動車メーカーのリコール隠し事件をモチーフにしたもの。今年映画化されました。



『空飛ぶタイヤ』  
池井戸潤／著  
実業之日本社  
2006年出版

(表紙画像は2018年刊の新版)

経済小説には、丁寧な取材をもとに書かれている重厚な作品も多くあり、ストーリー展開の面白さのほかに、色々な業界や職種への知識を得られる魅力があります。

また、企業内部の権力闘争や外資による企業買収、就活の苦労など、扱うテーマも様々ありますが、そのどれもが、働くことや稼ぐことは生きていくことに直結したものであるため、現実感のある物語を楽しむことができます。

最近では「ビジネス小説」の呼び方が一般的であり、小説を読むことで、モデルになった企業や人物、事件の背景が分かる作品が多いことも特徴のひとつであり、ドラマや映画になって有名となる作品もあります。

あなたも、お気に入りの1冊を見つけてみてはいかがでしょうか。

今回の特集にあたり、以下の本を参考にしました。

- ◇ 『この経済小説がおもしろい！  
ビジネスと人生の本質に迫る絶対オススメ 78冊』  
(堺 憲一／著 ダイヤモンド社 2010年)
- ◇ 『経済小説の読み方』(佐高 信／著 光文社 2004年)
- ◇ 『会社員とは何者か？ 会社員小説をめぐる』  
(伊井直行／著 講談社 2012年)



作品の紹介は  
次ページへ！

# 業界別小説



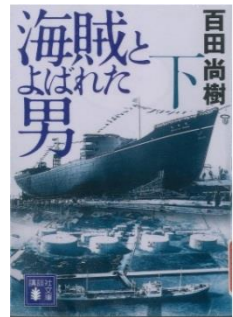
## 官公庁

『財務省の階段』 幸田真音/著 KADOKAWA 2014 (角川文庫)  
若手官僚の原田が自殺した。けれどそれは、本当に自殺だったのだろうか？  
原田が遺したノートを頼りに、上司の芹川は財務省の地下室へと向かった。  
(表題作『財務省の階段』 「経済ホラー小説」の短編集。

- 『県庁の星』 桂 望実/著 (小学館 2005)
- 『民王』 池井戸潤/著 (文藝春秋 2013)
- 『県庁おもてなし課』 有川 浩/著 (角川書店 2013)
- 『都知事探偵・漆原翔太郎』 天祢 涼/著 (講談社 2014)
- 『教場』 長岡弘樹/著 (小学館 2015)



『海賊とよばれた男』 百田尚樹/著 講談社 2014 (講談社文庫)



日本敗戦後、「石油」を武器に世界へと立ち向かっていく国岡鐵造。出光興産社長の出光佐三をモデルに、昭和 28 年に産油国イランと直接石油を取引した「日丸章事件」を元に、石油に賭けた男たちを描いた歴史経済小説。

- 『マグマ MAGMA』 真山 仁/著 (角川書店 2009)
- 『原発ホワイトアウト』 若杉 冽/著 (講談社 2013)
- 『ザ・原発所長』 黒木 亮/著 (朝日新聞出版 2015)

## エネルギー業界

## マスコミ・メディア業界

- 『第四権力 スキャンダラス・テレビジョン』 高杉 良/著 (講談社 2013)
- 『警察(サツ)回りの夏』 堂場瞬一/著 (集英社 2017)
- 『公器の幻影』 芦崎 笙/著 (小学館 2016)
- 『紙の城 CASTLE OF PAPER』 本城雅人/著 (講談社 2016)
- 『北海タイムス物語』 増田俊也/著 (新潮社 2017)

『偽薬』 江波戸哲夫/著 講談社 2002 (講談社文庫)  
新薬「DK-777」の臨床試験中にその患者が死亡し、製薬会社の担当者は新薬の欠陥に気付く。新薬開発をめぐる企業小説。



## 病院・医療業界

- 『白い巨塔』 山崎豊子/著 (新潮社 2002)
- 『走れ病院』 福田和代/著 (実業之日本社 2014)
- 『救急病院 Emergency Hospital』 石原慎太郎/著 (幻冬舎 2017)
- 『ビギナーズ・ドラッグ Beginner's Drug』 喜多喜久/著 (講談社 2017)

## 経済小説 草創期の作家たち と その職業

- 城山三郎(1927-2007) ⇒ 国立大学教員
- 梶山季之(1930-1975) ⇒ フリーライター
- 清水一行(1931-2010) ⇒ フリーライター
- 高杉 良(1939-) ⇒ 新聞編集者
- 山崎豊子(1924-2013) ⇒ 新聞記者



『アフリカッ! AFRICA!』 松村美香/著 中央公論新社 2013

社内の PC を管理するシステム部からアフリカ開発部へと異動になった大輝。「現実社会で勝負したい」と夢を追い求めるが、文化の違いや、現地で病に倒れるなどの困難は後を絶たない。やがてその先に見つけた「アフリカ」の可能性とは……。

## IT 業界

- 『プレ SE 奔走す システムはこうして受注される』 広井 徹/著 (パレード 2006)
- 『象の墓場』 楡 周平/著 (光文社 2013)
- 『奥さまは CEO』 鎌田和彦/著 (ローソン HMV エンタテイメント 2013)

## 建設・土木業界

- 『鳶がクルリと』 ヒキタクニオ/著 (新潮社 2005)
- 『鉄の骨』 池井戸潤/著 (講談社 2011)
- 『社奴』 森村誠一/著 (集英社 2014)
- 『闇を裂く道』 吉村 昭/著 (文藝春秋 2016)
- 『無名碑』 曾野綾子/著 (講談社 2016)

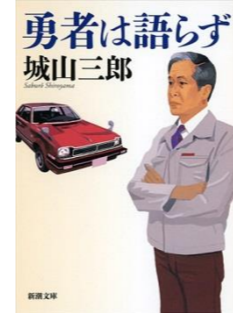


## 金融業界

『オレたちバブル入行組』 池井戸潤/著 文藝春秋 2007 (文春文庫)

主人公の半沢は、夢を抱いて銀行へ入行した。そして中間管理職となった今、その夢は形を変えた。半沢が最後に語った、「夢を見続けることは難しい」の真意とは……。  
“半沢直樹シリーズ”の第一作目。

- 『謀略投機 小説ヘッジファンド』 宮崎正弘/著 (徳間書店 1999)
- 『金融腐蝕列島』 高杉 良/著 (講談社 2002)
- 『D 列車でいこう』 阿川大樹/著 (徳間書店 2007)
- 『ジャパン・プライド』 江波戸哲夫/著 (講談社 2009)
- 『実録頭取交替』 浜崎裕治/著 (講談社 2014)
- 『メガバンク最終決戦』 波多野聖/著 (新潮社 2016)



『勇者は語らず』 城山三郎/著 新潮社 2015 (新潮文庫)

世界大戦後、自動車メーカーに勤める冬木は、日本車の海外輸出を行った。けれどその行為は海外からバッシングを受ける結果となった。憤ることなく沈黙に徹した冬木の姿は、果たして「勇者」なのだろうか……。

- 『機械・春は馬車に乗って』 横光利一/著 (新潮社 2003)
- 『わたし、型屋の社長になります』 上野 歩/著 (小学館 2015)
- 『陸王』 池井戸潤/著 (集英社 2016)
- 『トヨミの野望 小説・巨大自動車企業』 梶山三郎/著 (講談社 2016)

## 製造業界

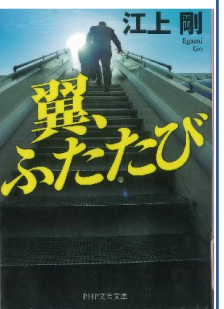
## 出版・書店等、本を扱う業界

- 出版社
  - 『平台がおまちかね』 大崎 梢/著 (東京創元社 2008)
  - 『断裁処分』 藤脇邦夫/著 (ブックマン社 2017)
  - 『舟を編む』 三浦しをん/著 (光文社 2015)
- 書店
  - 『本屋稼業』 波多野聖/著 (角川春樹事務所 2016)
- 作家
  - 『私にふさわしいホテル』 柚木麻子/著 (新潮社 2015)
- 図書館
  - 『おさがしの本は』 門井慶喜/著 (光文社 2009)

『翼、ふたたび』 江上 剛/著

PHP 研究所 2017 (PHP 文芸文庫)

会社更生法の申請、外部から招いた経営者との衝突、東日本大震災の被災。様々な困難が押し寄せる中、社員たちが選んだ行動とは……。



## サービス業界

- 航空
  - 『シルクロードの滑走路』 黒木 亮/著 (文藝春秋 2005)
  - 『あぼやん』 新野剛志/著 (文藝春秋 2008)
- ホテル
  - 『オテルモル』 栗田有起/著 (集英社 2005)
- 不動産
  - 『狭小邸宅』 新庄 耕/著 (集英社 2013)



まだまだ読み足りない！ という方は 4ページ目ブックリストをご覧ください

# もっと読みたい方へ

時代の中で



## 人生それぞれの場面で

### 就職活動

『シューカツ!』石田衣良/著 文藝春秋 2008

### 過労

『いつもそばにいるよ』  
江上 剛/著 実業之日本社 2009

### 社内イジメ

『会社を喰う』渡辺一雄/著 毎日新聞社 1979

### 働く喜び

★『やってられない月曜日』柴田よしき/著  
新潮社 2010

### 子育てと

★『書店ガール』碧野 圭/著 PHP 研究所 2012

### 昇進・出世

★『スクール之夜』  
芦崎 笙/著 日本経済新聞出版社 2014

### 派閥

『重役室25時』  
山田智彦/著 角川書店 1977

### 介護と

『介護退職』 榎 周平/著 祥伝社 2014

### 降格

★『辞めない理由』 碧野 圭/著  
パルエンタテインメント事業局 2006

### リストラ・解雇

『私たち崖っぷち』  
ジョシュア・フェリス/著 篠森ゆりこ/訳  
河出書房新社 2011

『指名解雇』 高杉 良/著 講談社 1999

『非情銀行』 江上 剛/著 講談社 2014

『君たちに明日はない』  
垣根涼介/著 新潮社 2005

### 転職

『大脱走(スピアウト)』  
高杉 良/著 新潮社 2011

### 起業

★『風のマジム』原田マハ/著 講談社 2010

### 定年

『円満退社』 江上 剛/著 幻冬舎 2007

### 定年後

『ハッピー・リタイアメント』  
浅田次郎/著 幻冬舎 2011

『敗者復活戦』  
高任和夫/著 講談社 2010

★は主人公が女性の小説です。



### 戦後復興

『団塊の世代』 堺屋太一/著 文藝春秋 2005

### 高度成長

『虹を創る男』 邦光史郎/著 集英社 1988

### バブル

『錬金』 石川 好/著 新潮社 1998

『巨大証券の犯罪』 水沢 湮/著 健友館 1989

『バベルの階段』 北沢 栄/著 綜合法令 1994

『動く不動産』 姉小路祐/著 角川書店 1991

『バブル・ゲーム調書』 森 哲司/著 新潮社 1992

### 失われた20年

『巨大投資銀行』  
黒木 亮/著 ダイヤモンド社 2005

『空洞産業』 江波戸哲夫/著 徳間書店 1996

『小説サブプライム』  
落合信彦/著 集英社 2011

## 実在の企業や人物を題材に

『大物』 清水一行/著 光文社 1985

『燃ゆるとき』 高杉 良/著 実業之日本社 1990

『大合併』 高杉 良/著 講談社 1992

『小説兜町(しま)』 清水一行/著 青樹社 1993

『沈まぬ太陽』 山崎豊子/著 新潮社 2001

『エネルギー』 黒木 亮/著 日経BP社 2008

『ラストワンマイル』 榎 周平/著 新潮社 2009

『組織に埋れず』 高杉 良/著 新潮社 2017

千葉県  
お馴染みの  
あの企業

『夢を喰らう』 本所次郎/著 徳間書店 1994

浦安沖の埋立、デージーランドの日本誘致。

「夢と魔法の王国」を作り上げるまでのお話。

『ミッキーマウスの憂鬱』

松岡圭祐/著 新潮社 2005

ゲストとして来場するのは全く違う、職場としての東京ディズニーランド。

繰り返し  
何度も

## 映画化・ドラマ化された経済小説

※映画及びドラマのタイトルは原作と同じです。

『三等重役』 源氏鶏太/著 新潮社 1990

『赤いダイヤ』 梶山季之/著 パンローリング 2005

『華麗なる一族』 山崎豊子/著 新潮社 2003

『ハゲタカ』 真山仁/著 講談社 2006

『官僚たちの夏』 城山三郎/著 新潮社 2002

『不毛地帯』 山崎豊子/著 新潮社 2009

## 駅南図書館の 経済小説コーナー

駅南図書館はビジネス支援サービスの特徴の一つとしている図書館で、経済小説のコーナーがあります(2018年9月現在340冊)。

いろいろな経済小説をまとめてご覧いただけますので、是非ご利用ください。